第 12 講　カリキュラム・マネジメントと学校における音楽科の役割

【学習到達目標】

（１）音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの充実について、説明できる。

（２）「社会に開かれた教育課程」の実現のために、カリキュラム・マネジメントの充実を目指して、学校教育目標をふまえた音楽科における地域社会とのかかわりを構築することができる。

１．カリキュラム・マネジメントとは何か

よりよい学校教育が、よりよい社会を創ること、を基本の考え方として、学校では、子供たちに「生きる力」を育んでいる。変化の激しいこれからの時代を見据えて、子供たちに必要な資質・能力をしっかりと身に付けることができるよう、学校の教育目標や目指す子供像などを地域社会と共有しながら、連携・協働を進めることが大切である。そのため学校は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みを構想することが大切とされている。

カリキュラム・マネジメントとは、「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上を図っていくことを示している。学校が、社会の中の学校となるために、教育課程もまた、社会や地域とのつながりを意識することが求められている。つまり、教育課程を介して、学校が社会や世界との接点をもつことが、これからの時代において、より一層重要となってくるのである。

図１　カリキュラム・マネジメントのもととなること（学校や地域の実態、特色を考える）

スライド「カリキュラム・マネジメント」
文部科学省
(2020)

例えば、図１のように、学校の教育資源（人、物、お金、情報、時間など）をうまく活用し、地域社会の協力を得ながら、一緒に子供の成長を支えることを目指している。

小学校学習指導要領　第１章　総則において、カリキュラム・マネジメントは、次のように示されている。

> **小学校学習指導要領　第１章　総則　第１の４**
>
> 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、
>
> ①　教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てて行くこと、
>
> ②　教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、
>
> ③　教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
>
> などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下カリキュラム・マネジメント）という。）に努めるものとする。

カリキュラム・マネジメントとは、各学校において、各教科等の教育内容の組織化をはかり、教育課程を編成し、資源の投入や協働を促すなど諸条件の効果的な活用を通して、学校教育目標の実現をめざす営みであり、学習や生活の指導にあたる「教育」と組織運営に関わる「マネジメント」を結び、学校における教育の質の向上をめざす営み、であるといえる。

これまでも音楽科は、郷土の民謡や芸能、諸外国の音楽などを学習する際に、地元の演奏家をゲストティーチャーとして招聘し、本物の音楽にふれることができるような場や、他学年や学校外の人々との交流を実施し、音楽活動を通じて交流を深めたりできる場をコーディネートしてきた。音楽は、人と人とをつなぐ力がある。音楽を通して子供たちに育む資質・能力とは何かを、社会と共有し、地域社会とのかかわりを大切にした題材構成をすることによって、子供たちがつくり出す音楽の世界が、地域、社会へとダイナミックに広がっていく学習を創造したい。

２．資質・能力を育む音楽科カリキュラム・マネジメントの視点

音楽科におけるカリキュラム・マネジメントは、学校教育に関わる様々な取り組みを、音楽科の教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、音楽教育活動の質の向上につなげていくことである。理想的な学校活動としての音楽科の役割は何か、考え授業づくりをし、指導計画に沿って実現していくことが、音楽科におけるカリキュラム・マネジメントである。

「児童や学校、地域の実態を適切に把握する」とは、音楽科が求める資質・能力の実態把握はもとより、音楽の習い事（ピアノ、ボーカル、ギター、三味線、箏、和太

鼓など）の経験、これまでの音楽朝会・集会や音楽会など、学校での音楽活動の経験、学校行事（歓迎・お別れ集会、運動会、文化発表会など）や、クラブや委員会（合唱クラブ、音楽委員会、金管バンドなど）、また、地域における音楽活動の機会（祭り、伝統芸能、イベント、国際交流、公民館サークル、PTA、青少年健全育成連合会などの行事）やコンサート会場の有無などが関わってくる。子供たちが、どのような音楽経験をしてきたかを把握した上で、今ある姿を捉え、その姿を音楽科の学習活動を通して、どのような子供に育てるか、具体的に思い描くことが大切である。

「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」とは、

① 学校教育目標を基に、自校の児童の実現したい資質・能力を具体的な姿で想定する。

② 実現のためにはどんな内容や方法があるかを明らかにする。

③ 他教科や行事等と横断的に関連することで、実現したい資質・能力が高まることを明記して、音楽の年間指導計画を作成すること。

である。

図３　カリキュラム・マネジメントの３つの側面（複数教科等の連携例）

教科等横断的授業デザインは、他教科（外国語科、道徳科、総合的な学習の時間を含む）との連携で、地域や学校の特徴を生かした学び・研究課題と音楽について連携を図った授業をつくることで、特色ある教育課程をつくることができる。また、ゲストティーチャー（地域人材、プロの演奏家、人材バンク等）との連携で、地域に居住する人々との音楽文化体験・交流をしくむことができる。特に低学年においては、生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、音楽の学習においても生活を豊かにしていくために音楽が生かされるようにする、など教科間の連携が大切である。

「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」については、主体的・

対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、資質・能力を育む効果的な指導ができているか、を題材毎に確認する必要がある。また、実施中の教育課程を検討し評価して、課題を具体化し、その原因を明らかにした上で、改善を図っていくことが大切である。教育課程全体としては、目指す子供の姿が実現されているかどうか、という視点から、教育課程の見直しと改善を重ねながら、改善・充実の好循環を生み出す子供のためのカリキュラム・マネジメントの実現を目指したい。

小学校学習指導要領（音楽）「指導計画の作成と内容の取扱い」でも、配慮事項として、

> 第３　指導計画の作成と内容の取扱い
> ２（１）
> エ　児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、児童や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること

と示されている。学校や地域に顕著な特徴が挙げられない学校においても、教育委員会主催の芸術鑑賞教室（ミュージカルや音楽会などの鑑賞教室）や、図４の文化庁の舞台芸術鑑賞事業（https://www.kodomogeijutsu.go.jp/）などを積極的に活用して、年間指導計画や年間行事予定に、音楽を位置付け、組織的かつ計画的に、資質・能力を育む音楽科カリキュラム・マネジメントを実現させてほしい。

図４　学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業、舞台芸術等総合支援事業　（学校巡回公演）

【参考文献】
1）文部科学省(2020)スライド「カリキュラム・マネジメント」
2）宮下　俊也（2018）「平成 29 年改訂　小学校教育課程実践講座　音楽」
3）初等科音楽教育研究会　編(2020)「初等科教育法」（音楽之友社）

課　題

1．（あなたの所属校、もしくは出身校の）子供や地域の実態を生かした「カリキュラム・マネジメント」実現のための特色ある音楽の指導計画を立てなさい